

高校生が考える人権課題

子どもの人権とそれを解決するために



地域のつながりが
子どもたちの安心となります



小郡にある県立三井高校では、毎年スポーツ健康コース、福祉教養コースの生徒たちを中心とした『三井高校発表会』が行われています。昨年度も12月に開催されました。

その発表の中に、**子どもの人権**をテーマにした福祉教養コースの生徒のレポートを発見。啓発冊子アンケートでもっとも関心の高かった子どもの人権について、高校生がどのような気持ちで臨んだのか、そしてその課題解決のためにどのような提案をしているのか、高校生の話やレポートを紹介します。

福祉教養コース

『子どもたちの希ある未来の
ために』
のぞみ



▲ きりっと素敵な高校生

福祉教養コースの生徒たちが選んだテーマは『児童虐待』。自分達に身近なテーマかなという理由で選んだそうですが、70人程のアンケートをした中に、2人が実際に関わりがあるという回答を得て、本当に身近なことだと実感したとのことでした。

高校生のレポートにはこんなメッセージが書かれています。子育て中の大人にもストレスなどいろんな事情があります。家にも職場にも居場所がない時は、大人も第2の居場所が必要ですよ。それは友だち、地域の知り合いなどで、話せる人がいることだと思います。そして、私たちの願いは、人が無関心でなく、子ども一人ひとりに目を向け、守ってあげられる地域がつく



エコキャップで
世界の子どもたちと
つながります



県立小郡高校では家庭科クラブの活動の一つとして『ペットボトルキャップの回収』を行っています。この活動は、環境ばかりでなく福祉や人権など世界規模の社会貢献として展開されています。

高校生がどんな思いからこの活動を始め、続けているのか、活動している生徒の皆さんに伺ってみました。

始まりは文化祭で、

最初の出会いは中学校

ペットボトルキャップ回収

小郡高校では22年度の文化祭で、生徒会が中心になってペットボトルキャップ回収運動を行いました。その時の目標が1万個でした。この活動を見ていた家庭科クラブ員が、昨年の10月からクラブ活動として回収を始めています。今回も目標は1万個。

体育祭のシーズンにペットボトルが大量に校内にあるのを見て、「なんとか…」と思ったことが動機。この活動は、リサイクル、そして、世界の途上国の子どもたちへワクチンを送るという社会貢献活動にもなっています。さらに、クラブ員にとっては中学校（大原中学校）でも取り組んでいたのでも、エコキャップ回収運動には馴染みがありました。小中学校の取り組みが子どもたちの将来の活動や考え方にヒントを与えているんですね。

家庭科クラブでは、ベルマーク運動（小郡特別支援学校への寄付）やリサイクルファッションショー（古着を使った服の製作）など様々な活動を行っています。



元気いっぱい的高校生！
できる時に、できることをやろう！

られることです。お隣に住んでいる方の顔がわかる、学校帰りには近所のおじちゃん、おばちゃん「おかえり」と声をかけてくれる、知らない人でもすれ違う時には自然と挨拶を交わす、そんな昔当たり前だった光景が見られるようになれば、子どもたちが安心して心から笑える環境になると思います。

どうして高校生たちからこのような提案が生まれたのでしょうか？メンバーのひとりの高校生に尋ねると「私の住んでいるところは今でも挨拶が交わされ、くちゃんはどうしてる？と地域の子どもを気づかう大人たちが沢山います。田舎だからかな」との答え。他の生徒さんも「小さい頃はそうやったね」と話してくれました。地域が育てた素敵な若者たちでした。

オレンジリボン運動



子どもの虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで子どもの虐待をなくすことを呼び掛ける市民運動です。特定非営利法人・児童虐待防止全国ネットワークでは、オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に感心を持っていただき、市民ネットワークにより、虐待のない社会を築く事を目指しています。

「虐待かな？」と思ったら
児童相談所全国共通ダイヤル
05701064000

キャップでつながる人権の輪

